

与論町での耕畜連携取り組みについて

与論町の主幹品目は、肉用牛やさとうきびですが、肥料、飼料の高騰により、所得が少なくなっている現状にあります。さらに、さとうきびでは、高齢化・労力不足等の問題があり、肉用牛では、頭数増加による自給飼料の不足、糞尿処理や堆肥生産・処理が問題となっています。

そこで、さとうきびを生産する「**耕種農家**」と子牛を生産する「**畜産農家**」が**連携**する「**耕畜連携**」を行い、お互いの所得向上につなげています。

【 耕畜連携の概要(図1) 】

- ①夏植え予定のさとうきびを収穫後、生産牛農家へ畑を貸し出します。
- ②生産牛農家は、さとうきびの植付けまでの未作付け期間に牧草を栽培します。
- ③生産牛農家は、牧草収穫後堆肥を3～5t/10a散布し、深耕・耕耘してから畑を返します。
- ④さとうきび農家は、返された畑にさとうきびを植え付けます。

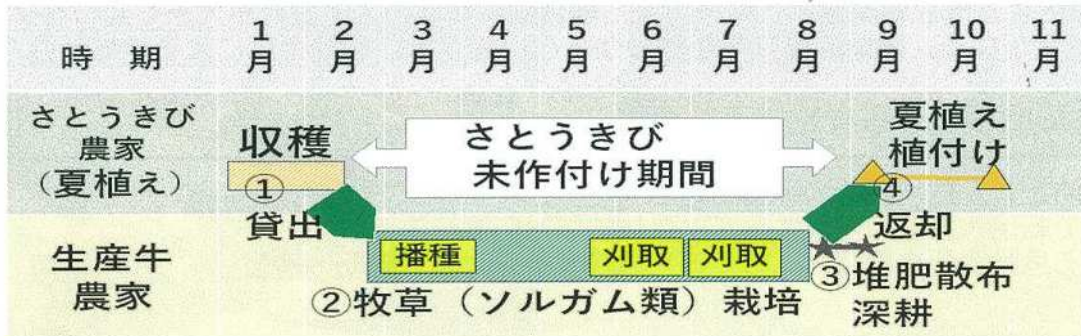


図1 耕畜連携概要図

【 耕畜連携のメリット 】

- 生産牛農家
 - ①自給飼料を確保できます(表1)。
 - ②余剰堆肥を処理(畑に散布)し、堆肥舎の空いたスペースで効率的に堆肥生産できます。
- さとうきび農家
 - ①堆肥による土づくりで収量・品質が向上します(図2)。
 - ②さとうきびの未作付け(土づくり・ほ場準備)期間の労働時間と経費を削減できます(図3)。

表1 耕畜連携ほ場スーダングラス実証結果

区分	乾物収量 (kg/10a)	粗収益※ (円/10a)	刈取回数 (回)
実証平均	1,468	153,259	2.3
慣行平均 (飼料畑)	1,515	158,166	3.0



図2 耕畜連携夏植えさとうきび実証結果

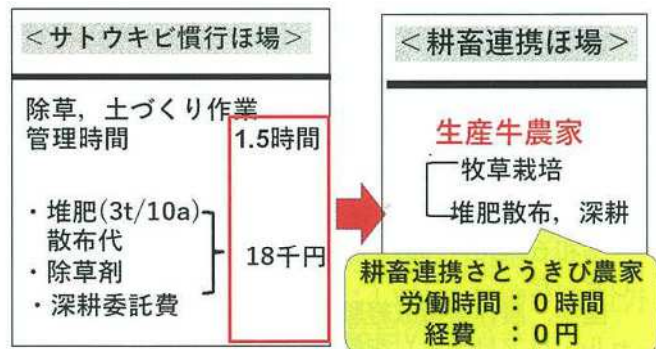


図3 さとうきび慣行ほ場との労働時間・経費比較

【 耕畜連携の参加申し込みの流れ 】

- ①耕畜連携申請書兼契約書を記入して与論町産業課へ提出します。
- ②さとうきびほ場から生産牛農家の牛舎が近い順に農家を割り振り(マッチング)ます。

今後も園芸部門や様々な方法での耕畜連携に取り組みながら、所得向上を目指します。